

Gion Festival Takayama Float Reconstruction Project 2:Design of Costume for Musicians

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 滝口, 洋子, 吉田, 雅子, 日下部, 雅生, 川嶋, 渉 メールアドレス: 所属:
URL	https://kcua.repo.nii.ac.jp/records/242

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



祇園祭の鷹山の復興プロジェクト 2

—囃子方の衣裳のデザイン

Gion Festival Takayama Float Reconstruction Project 2:

Design of Costume for Musicians

Yoko Takiguchi 滝口 洋子
Masako Yoshida 吉田 雅子
Masao Kusakabe 日下部雅生
Wataru Kawashima 川嶋 渉

江戸時代に損壊した祇園祭の鷹山を復興させるために、京都市立芸術大学は、祇園祭山鉦連合会及び鷹山保存会の御協力の下、鷹山の復興計画に参加している。鷹山の祭礼衣裳、裾幕、小物のデザインを、教員と学生が数年をかけて制作している。2018年は本プロジェクトの2年目にあたり、囃子を奏でる囃子方の衣裳をデザインした。また、この授業と平行しながら、昨年度の授業においてデザインを起こした曳き手の衣裳のモデル制作とその展示も行った。

本年度の授業に参加したのは3回生・4回生・修士課程大学院生の計22名で、5班に分かれて作業を行った。授業では祭礼や衣裳などの歴史的検証をまず行い、それに基づいてデザインを起こした。歴史的検証の部分は吉田雅子が主体となり、デザイン制作の部分は滝口洋子、日下部雅生、川嶋渉が主体となって指導した。授業の主要構成要素は以下である。

- ・ちおん舎の蔵の見学と京都文化博物館におけるの蟬螂山の展示の見学
- ・祇園祭・鷹山・衣裳等に関する資料調査
- ・ラフ・デザインの制作
- ・鷹山へのラフ・プレゼンテーション
- ・デザインの修正と展開
- ・宵山・還幸祭の見学
- ・鷹山への正式プレゼンテーションと鷹山によるデザインの選定

(1) 鷹山に関する展示の見学と、祇園祭・鷹山・衣裳等に関する資料調査

5月10日に京都文化博物館において、祇園祭の蟬螂山に関する展示を見学した。また、同日に鷹山保存会の区域内のちおん舎において、その家屋や蔵を拝見した。そして4月19日、5月17日の授業において、班ごとにテ-

マを設定して祇園祭・鷹山・衣裳等に関して調べ物を行った。各班の調査の主題は以下である。曳手・囃子方・音頭取り・車方・屋根方の衣裳(1班)、囃子方の浴衣(2班)、浴衣一般(3班)、鷹山の歴史(4班)、祇園祭の歴史(5班)。5月31日に調査した内容を各班がプレゼンテーションし、それまで班ごとに調べていた内容を全員で共有した。

(2) 曳き手衣裳と扇子の展示と御披露目

昨年度の授業では、曳き手の衣裳と扇子のデザインを起こした。これらのデザインのモデル制作が上がってきたため、それらを四条通りの祇園祭ギャラリー(東山区祇園町南側551)において展示公開し(図1)、多数の来場者を迎えた。

(3) ラフ・デザインの制作と鷹山へのラフ・プレゼンテーション

5月10日に、ちおん舎にうかがった際に、鷹山の浴衣のデザイン条件を伺った。提示された条件は、以下であった。本年度は、囃子方の浴衣と帯をデザインしてほしい。昨年度の曳手の衣裳デザインは様々なものがあり大変面白かったため、今回は学生の発想を重視したい。そこで、本年度は特にデザインの条件を設けず、自由にデザインを考えてほしい。以上の内容に従いながら、6月7日、14日に班ごとにデザインのラフスケッチをとりまとめ、6月21日に第1回目の鷹山へのプレゼンテーションを行った。

(4) デザインの修正と展開

6月28日に学生と教員が鷹山に赴き、さらに浴衣の染を行う藤田染苑を見学して(図2)、浴衣のデザインの詳細に関して質疑応答を行った。その結果、以下の内容を



図1 祇園祭ギャラリーにおける展示

デザインの追加条件とすることになった。

- ・囃子方は計48名（子どもから大人まで、現在は男性のみ）
- ・来年唐櫃巡行を行う際に着用する浴衣と帯をデザインする

(a) 浴衣のデザイン

- ・浴衣は4・5年ごとにデザインしなおすが、このデザインは正式巡行にも用いる
- ・染色技法は、シルクスクリーン（手捺染）
- ・リピートは、横は40センチ。縦は通常76センチだが、60センチから90センチも可能（浴衣のデザインに落とした場合、体の半分が縦の1リピートになる程度とする）
- ・ミラーリピートの場合、型が2組必要になる。2組の型を彫る事が可能であれば、2組を一つのデザインとして2組ずつリピートすれば、伸びのある柄を提案する事が出来る
- ・柄合わせは相談に応じるので、柄裕が必要なデザインも出してよい
- ・デザインは浴衣の図と、反物の1リピートの原寸図の

2種を提出する

- ・色彩は地色を含んで3色までとする（例1：地は白、文様は3色まで 例2：地は水色、文様は2色まで）

(b) 帯のデザイン

- ・帯は、長い年月使ってゆく
- ・帯は角帯で、幅は10cm
- ・見た時に鷹山とわかる要素を入れる（あまり複雑な文様は織り出しにくいので避ける）
- ・色数は特に限定しない（いろいろな浴衣に合わせて長い間使うので、特異な色を用いたり、多くの色数を様々なに用いたりしない方がよい）
- ・デザインは、原寸図（幅10cm）を提出する

鷹山保存会と藤田染苑からの様々な御助言に基づいて、7月5日・12日の授業において学生はそれぞれのデザインを修正し、さらに磨き上げていった。教員は学生にさまざまな方向から助言を与え、学生のデザインの水準が向上するように指導した。

(5) 宵山・還幸祭の見学

祇園祭の時期になったため、7月17日に前祭の巡行を



図2 藤田染苑の見学

学生が自由に見学した。7月21日は教員が引率し、後祭の宵山において町内の飾り物を見学し、祭囃子を聞いた。さらに、7月24日の22:00頃から、八坂神社において還幸祭を見学した。この神秘的な祭事によって、市内に移されていた祭神は八坂神社にもどり、祇園祭の主要な行事の幕が下りた。

(6) 鷹山への正式プレゼンテーションと鷹山によるデザインの選定

祭礼の熱がまだ冷めない7月26日、鷹山保存会に正式なプレゼンテーションを行った。鷹山理事会の方々は、プレゼンテーション終了後に集まって各班のデザインを詳細に検討され、その中から採用案を選定された。その結果、浴衣は木下美奈（油画専攻、4回生）、帯は佐藤香穂里（ビジュアルデザイン専攻、修士1回生）の案（図3・4）が選ばれた。また、帯の次点として、小川紗季（版画専攻、4回生）、竹中千瑠莉（環境デザイン専攻、3回生）の案（図5・6）が選ばれた。さらに、デザインが良いので囃子方の衣裳ではなく小物に使いたいと、以下の2点も選ばれた。Tシャツ用のデザインとして杉山佳代（プロダクトデザイン専攻、3回生）、手ぬぐい用のデザインとして土屋さおり（プロダクトデザイン専攻、3回生）の案（図7・8）である。

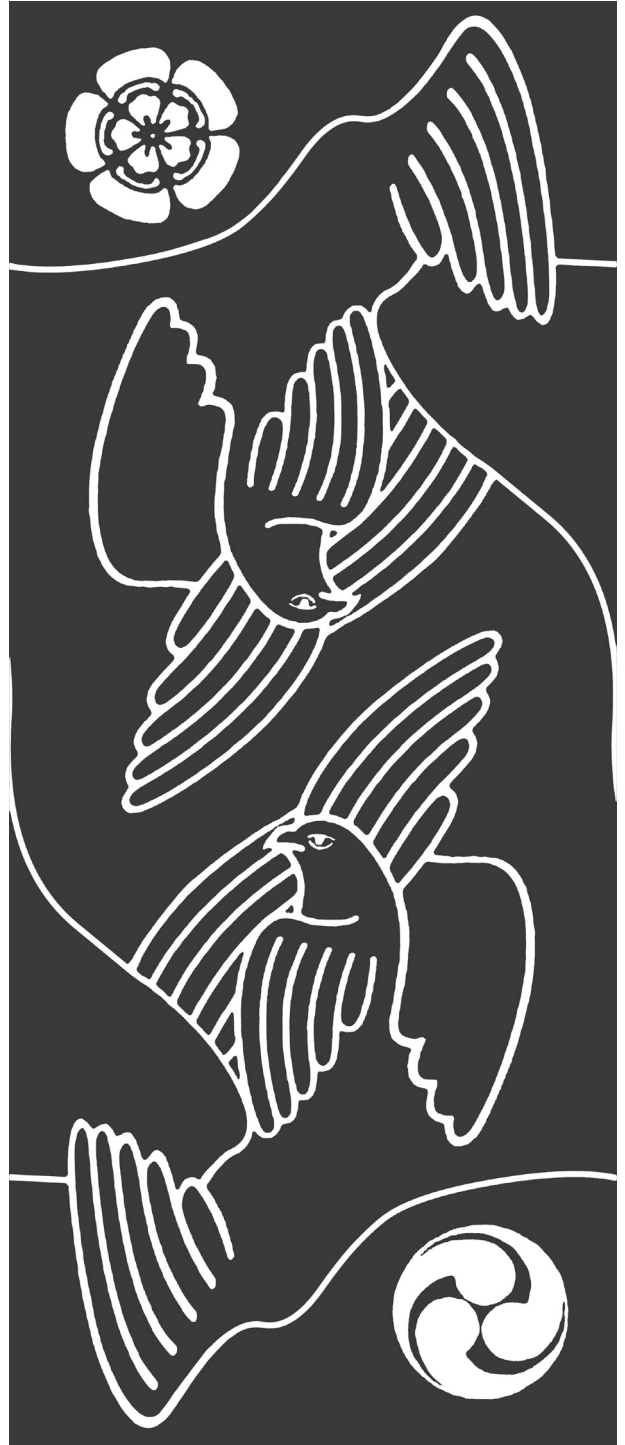


図3 囃子方の浴衣用に選ばれた木下美奈のデザイン

(7) 浴衣案の染め（シルクスクリーン）

授業が終了した後、各自が提出した案の1リピート分をデジタル捺染プリントで仕上げた。これによって、紙媒体の状態と染められた状態の違いがよくわかり、表現がメディアによってどのように変化したか理解できる。

学生は以上のプロジェクトに大変積極的に参加し、京都の人々を通して京都の文化と触れあい、自分たちの専

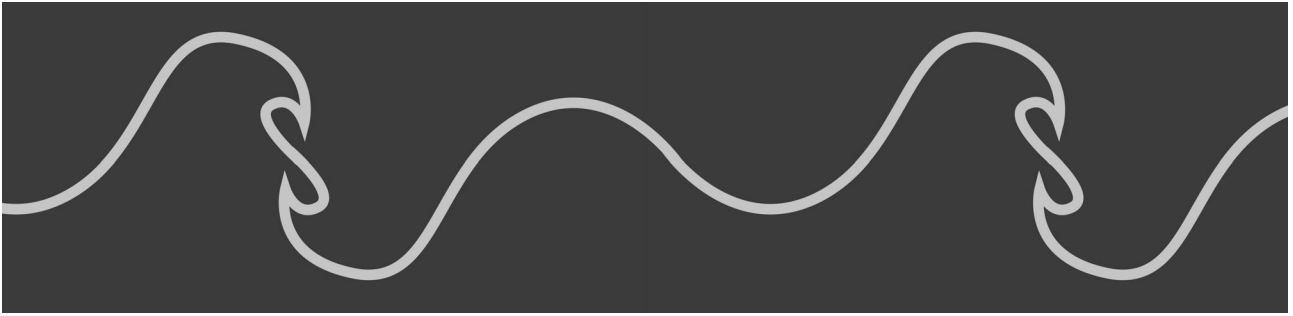


図4 囃子方の帯用に選ばれた佐藤香穂里のデザイン



図5 囃子方の帯の次点作に選ばれた小川紗季のデザイン



図6 囃子方の帯の次点作に選ばれた竹中千瑠莉のデザイン

門領域を越えてさまざまなアイデアを出し合い、多様なデザインを展開した。なお、曳き手衣裳・扇子の展示及び本年度のプロジェクトに関する内容は、以下のメディアで報道された。

【テレビ】計5件：(1) 関西テレビ「鷹山曳き手の衣装保存会に贈呈」平成30年6月3日；(2) KBS京都放送局「復興へ鷹山の衣装が完成」平成30年6月3日；(3) J:COM京都みやびじょん「祇園祭鷹山の衣装完成」平成30年6月6日；(4) KBS京都放送局「復興に向け鷹山囃子方衣裳のデザイン決まる」平成30年7月26日；(5) J:COM京都みやびじょん「祇園祭鷹山の衣装完成」平成30年7月30日

【新聞】計6件：(1) 京都新聞（朝刊）「鷹山、復興の

翼衣装に」「曳き手ら着用市立芸大生がデザイン」平成30年6月4日；(2) 読売新聞（朝刊）「祇園祭鷹山復活後押し」平成30年6月4日；(3) 産経新聞（朝刊）「京都市芸大生ら鷹山衣装デザイン」平成30年6月4日；(4) 毎日新聞（朝刊）「市立芸大「格好ええ」衣装制作」平成30年6月7日；(5) 京都新聞（朝刊）「鷹山3神体勇壮な扇子に」「授与品市立芸大生が考案」平成30年7月22日；(6) 京都新聞（朝刊）「囃子方の衣装、市芸大生提案」平成30年7月27日

【Web 新聞】計1件：(1) 烏丸経済新聞「祇園祭鷹山の曳き手衣装完成 京都市立芸術大学の学生らがデザイン」平成30年6月4日



図7 Tシャツ用に選ばれた杉山佳代のデザイン

現在、選定されたデザインに基づいてデザインモデルが制作されている。制作されたモデルは、四条通りの祇園祭ギャラリーにおいて2019年初夏に展示される予定である。

なお、次年度はこのテーマ演習で音頭取り（山鉦を先導する役）、車方（山鉦の進行をコントロールする役）、屋根方（屋根に乗り障害物を取り払う役）の衣裳をデザイン制作する予定であり、継続して鷹山の復興支援に関わってゆく。

【謝辞】

本プロジェクトにおいて以下の方々から御助言、御協

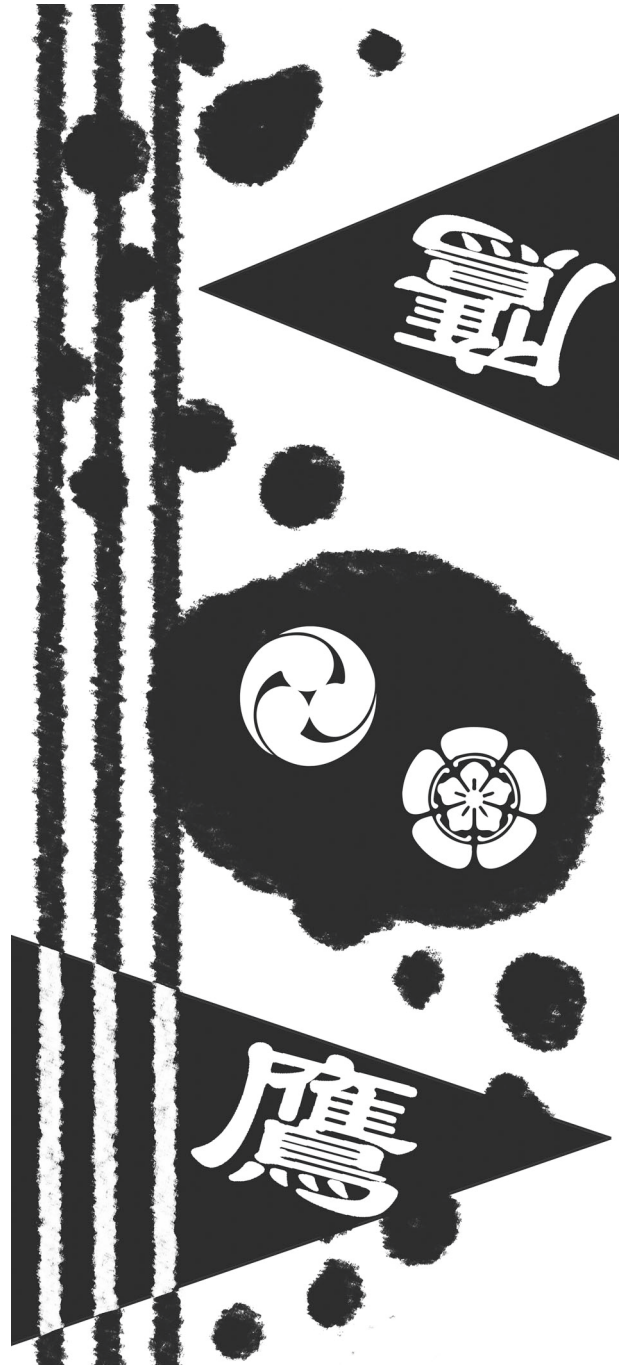


図8 手ぬぐい用に選ばれた土屋さおりのデザイン

力、御厚情を賜りました。ここに記して感謝の意を表します。山田純司様、西村吉右衛門様、西村健吾様、大嶋博規様、藤田丈博様、亀井泰仁様、京都市立芸術大学総務広報課 近西茂氏・北川潤氏。

【追記】

本プロジェクトは平成30年度京都市立芸術大学特別研究助成費を受けて遂行しました。

